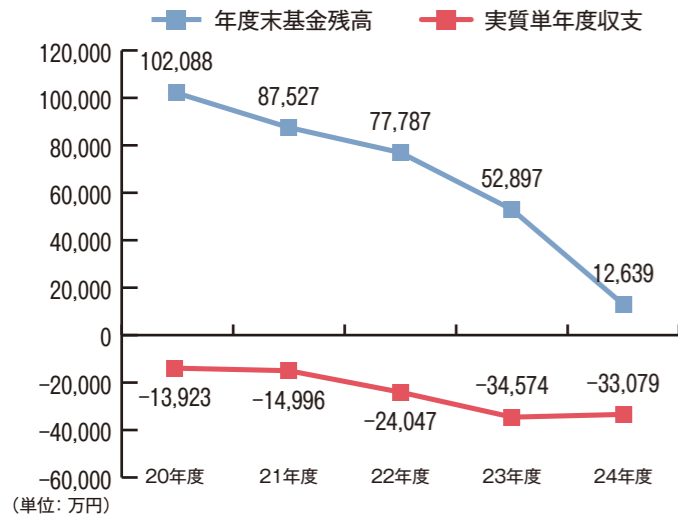
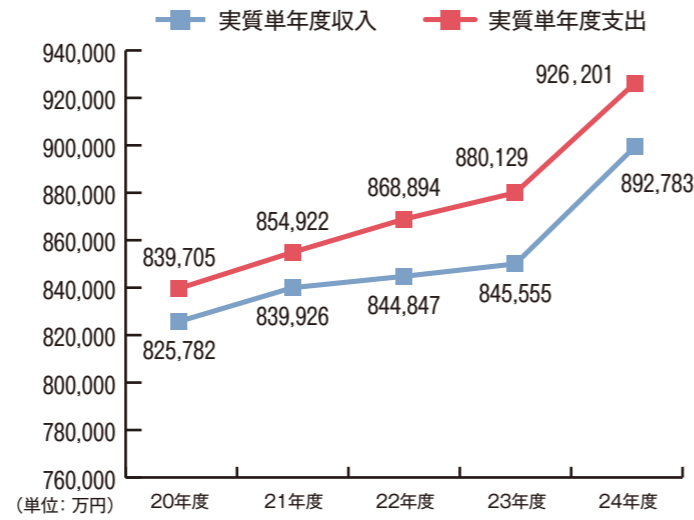


表④



表⑤



財政状況

南島原市国保の実質単年度収支は、平成20年度以降毎年赤字となり、23年度は3億4千万円を超える赤字となっています。合併時各町が持ち寄った財政調整基金12億6千万円を取り崩し赤字分を補てんしてきましたが、24年度末には基金残高が1億3千万円程度に減少する見込みとなっています。また、国保では医療費、後期高齢者支援金、介護納付金を合わせて毎月6億円を超える支出となっています。今年度は、税率改定により1億円の増収を見込んでいますが赤字解消には程遠く、医療費が減少しない限りさらなる税率改定が避けられない状況となっています。



国保を守るため皆さんにお願いすること



①保険料の納期内納付をお願いします。

保険料は期限内に納めてください。また、うっかり忘れることをなくすため、できるだけ口座振替の申し込みをお願いします。納期内に納めていただかないと、納期ごとに督促状を送付したり、職員が電話や訪問により催告を行います。また、悪質な場合は、預貯金のなどの財産の差し押さえを行う場合があります。



②生活習慣を改善しましょう。

生活習慣を見直し、改善することにより、生活習慣病を予防したり、その症状が軽いうちに治すことも可能です。生活習慣病の主なものは、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などで、早期には自覚症状がなく、気づかないまま症状が進行するのが特徴です。

また、自分の健康状態を知るため、疾病の早期発見のためにも健康診査を受診しましょう。



③ジェネリック医薬品を利用しましょう。

ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは、新薬（先発医薬品）の特許期間が終了した後に、新薬と同じ有効成分を持ち、同じ効用があると厚生労働省から認められた薬です。ジェネリック医薬品は低価格で、国保の医療費削減だけでなく、家計にも優しい薬です。積極的に利用しましょう。

国民健康保険制度

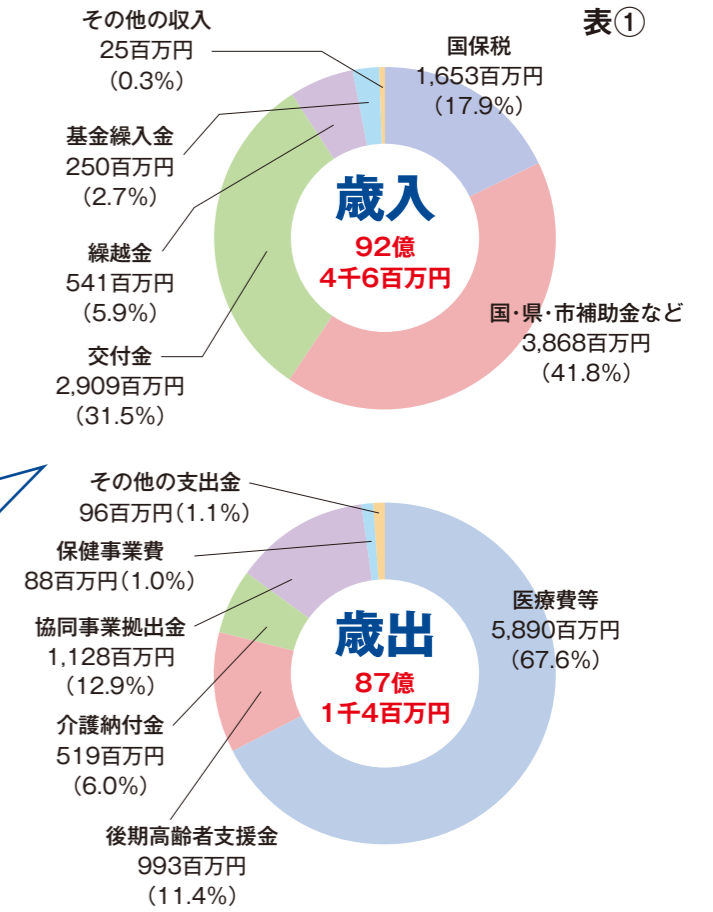
国民健康保険制度(国保)とは

国保は、健康保険、各種共済組合などの被用者保険に加入できない人を対象に、市町村が地域住民を対象に運営する市町村国保と同種同業者の人が構成する国民健康保険組合（例…医師国保、建設業国保など）があり、我が国の国民皆保険の根幹をなす制度です。

そして運営は、加入者の皆さんに納めていただく保険税と国、県および市の負担金、補助金や各種共済組合、健康保険組合などからの交付金を財源として運営されています。

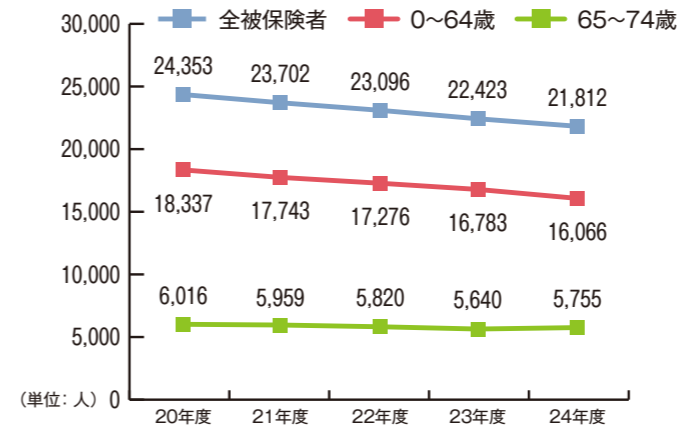
※歳入から歳出を差し引いた収支は5億3千2百万円の赤字となっていますが、前年度繰越金5億4千万円があったことや財政調整基金を2億5千万円取り崩したことにより、赤字となっているもので、**実質的な単年度の収支は3億4千万円を超える赤字です。**

平成23年度 南島原市国保財政



南島原市国保の現状

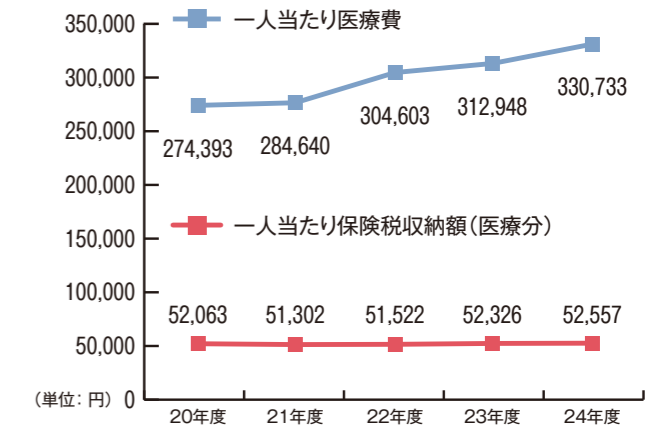
表② 被保険者数の動向



被保険者数の動向

本市の全被保険者数は、5年間で2,532人(10.4%)減少しています。若人(0~64歳)と高齢者(65~74歳)に分けてみると、若人は5年間で2,271人(12.4%)減少しているのに対し、高齢者は261人(4.3%)の減少となっていますが、ほぼ横ばいと言ってよく、本市も高齢者の割合が徐々に増加しています。

表③ 1人当たり医療費と保険税収納額



年々増加する医療費と伸び悩む保険税収納額

国保の医療費は年々増加の一途をたどっており、5年間で56,340円(20.5%)も増加しています。一方、国保制度では歳入の見込額から国、県、市の負担金・補助金などを控除した額は保険税で賄うとされていますが、1人当たり医療分保険税収納額は、長引く景気低迷の影響から5年間で494円(0.9%)の伸びにとどまっています。